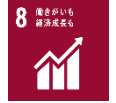


# 教職員が生き生きとした姿で児童生徒と向き合うための働き方改革

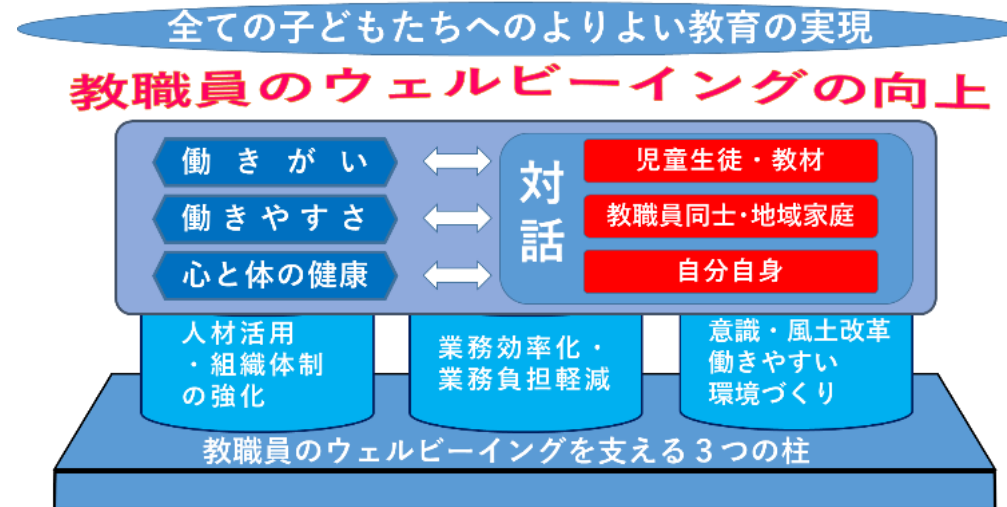
・複雑化・困難化している児童生徒の課題に応じた指導を行うために、業務の効率化等により、児童生徒一人ひとりとこれまで以上に向き合える体制の構築と、教職員のウェルビーイングの向上を図る。



## 1 現状と課題

社会変化への対応や保護者等からの期待の高まりを背景に長時間に及んでいた教職員の時間外在校等時間は、働き方改革の推進などにより月当たりの平均時間は減少傾向にはあるものの、依然として長時間の教職員が一定数いる。令和7年3月に、全てのこどもたちへのよりよい教育の実現を目的に策定した「仙台市立学校・園における教職員の働き方改革取組指針2025」に基づき、なお一層の取組が必要な現状にある。

【「教職員の働き方改革取組指針2025」の全体像】



## 2 教育委員会の主な施策

「教職員の働き方改革取組指針2025」における教職員のウェルビーイングを支える3つの柱に基づく取組

- (1) 柱Ⅰ：人材活用・組織体制の強化として「チーム担任制の導入」など
- (2) 柱Ⅱ：業務効率化・業務負担軽減として「学校版BPRの推進」など
- (3) 柱Ⅲ：意識・風土改革、働きやすい環境づくりとして「学校巡回型メンタルヘルスカウンセリングの実施」など

## 3 学校で特に力を入れる取組

- (1) チームとしての組織体制の構築に向けた取組として「スクール・サポート・スタッフの活用」など
- (2) 個々の負担軽減に向けた取組として「適切な教育課程編成による余剰時数の削減」など
- (3) ワーク・ライフ・バランスの確保に向けた取組として「定時退庁日の設定」など

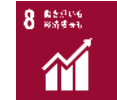
<関連資料等> ・仙台市立学校・園における教職員の働き方改革取組指針2025

5-2

## 教員の資質・能力の向上と人材確保

目 標

・教員のウェルビーイングを向上させ、心身の健康を確保した働き方を実現するとともに、主体的に資質・能力を高め、学び続ける教員を支援する環境を整備する。デジタル学習基盤 ICT と従来の実践をベストミックスし、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に展開する、効果的な授業改善を行う。



### 1 現状と課題

社会環境の急激な変化に伴い、教育課題は多様化・複雑化している。授業づくりや学級経営のみならず、いじめへの対応、特別な支援を必要とする児童生徒への支援、さらには学校における危機管理など、教員に求められる資質・能力は多岐にわたっている。

現職教員の資質向上についても、多様な手法で強化を図っている。大学院や在外教育施設への派遣研修に加え、教員OBらを学校に派遣して授業改善の指導や若手への教科指導を行うといった、実践的なOJTを充実させてきた。

今後は、教員のウェルビーイングを向上させることが不可欠である。心と体の健康を確保できる働き方を実現するとともに、研修や学ぶ時間を十分に確保し、自己の資質・能力を主体的に高められる環境を整備していく必要がある。こうした「学び続ける教員」に対する継続的な支援こそが、教育の質の維持・向上に直結すると言える。

### 2 教育委員会の主な施策

#### (1) キャリアステージに応じた研修の充実

本市の教員として求める資質・能力や目指す教員像を明らかにし、教育センターにおけるキャリアステージに応じた体系的な研修の充実と、各学校におけるOJTの支援に取り組む。

大学院等への派遣など学校現場を長期間離れて行う研修を通じ、学校現場で求められる専門知識の習得や実践力の向上に取り組む。

5つの資質能力	目指す教員の姿
豊かな人間力	倫理観と使命感を持ち、自立的に職務を実践する教員
実践的学習指導力	授業力の向上を目指し、常に学び続ける教員
確かな生徒支援力	児童生徒理解に努め、心身の健全な成長を支援し続ける教員
多様性への対応力	多様な児童生徒の理解と支援を心掛ける教員
ICT・情報活用力	ICTや情報を効果的に活用する教員

仙台市立学校教職員人材育成方針より

#### (2) 「仙台市若手教員育成事業」

教員の「養成・採用・育成」の各段階を体系化し、教師の資質能力の向上に向けた各種研修を設定する。採用前研修や年次研修、個別支援などを通して体系的な若手教員の育成に取り組む。

#### (3) 教育DX推進の支援

教員の資質・能力の向上を図るため、ICTの専門性を有する講師による希望研修や、ICTを活用したオンライン研修・オンデマンド研修など、学び続ける教員に対する支援を更に充実させる。

GIGAスクール構想の趣旨および仙台市立学校の現状を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現に向けた教育環境を構築する。具体的には、学校情報化研究委員会において教育データや生成AIの利活用に係る実践研究を進め、学校の情報化を推進する。

### 3 学校で特に力を入れる取組

#### (1) キャリアステージに応じた校内研修とOJTの深化

本市が求める教員像を共有し、若手から中堅・ベテランまで、各教員の経験年数や職責に応じた校内研修を計画的に実施する。

研修で得た専門知識を校内で共有する伝達講習の場を設け、組織全体としての指導力の底上げを図る。

#### (2) ICTを活用した「学びの最適化」と環境整備

ICT専門講師による研修を活用し、授業におけるデジタルツールの効果的な活用方法を習得するとともに、教員間での事例共有を推進する。

オンライン研修やオンデマンド研修を積極的に推奨し、柔軟かつ効率的に自己研鑽に取り組める時間を確保する。

問合せ先【教育センター 022-251-7441】



## 1 現状と課題

仙台版コミュニティ・スクールを効果的に進め、学校と家庭・地域が一体となり子どもたちの成長や学びを支える取組を進めること。

## 2 教育委員会の主な施策

### (1) 仙台版コミュニティ・スクールの推進

コミュニティ・スクール・アドバイザーを中心とした全協議会及び学校訪問や研修会等の実施、コミュニティ・スクール通信等を通して、各協議会の実情に合わせた伴走支援等を行う。

### (2) 学校支援地域本部を生かした取組の推進

学校支援地域本部の取組や人的ネットワーク等を生かし、学校と地域が協働する体制の推進を図ることで、子どもたちの健やかな成長と地域の教育力向上を目指す。

## 3 学校で特に力を入れる取組

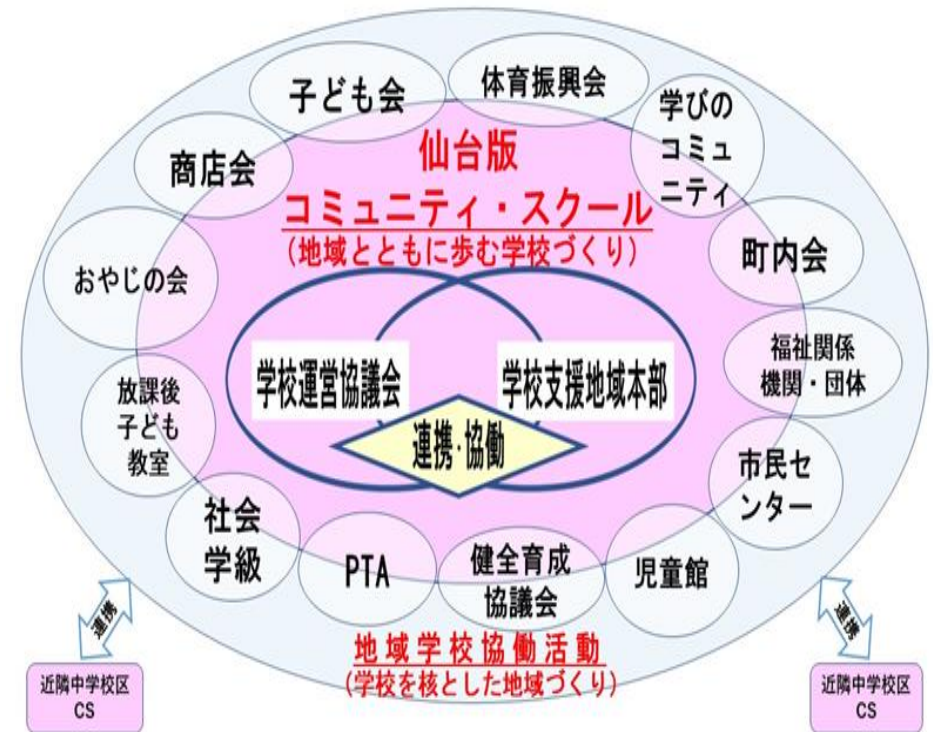
### (1) 学校運営協議会での「熟議」において、教職員や児童生徒の声を聞き、学校運営協議会を中心にその具体について検討し、学校支援地域本部を活用しながら学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの豊かな教育環境を創出していく。

また、協働型学校評価の充実を図り、学校・家庭・地域の三者が、それぞれの立場から児童生徒のよりよい姿の実現を目指し、当該年度の重点目標を設定し、改善活動に取り組み、その成果を次年度に生かして新たな重点目標設定につなぐなど、PDC Aサイクルを働かせる。

### (2) 「地域とともに歩む学校づくり」をより効果的に進めるために、学校の教育活動の充実や地域住民の自己実現、多世代の交流による地域の活性化、家庭・地域の教育力向上を図る。

#### <関連資料>

[コミュニティ・スクール推進事業](#)  
[仙台版コミュニティ・スクール](#)  
[学校支援地域本部事業](#)



問合せ先【学びの連携推進室 022-214-8438】